

# プロジェクトコーナー

## 安全で安心な水を求めて —国際ボランティア貯金寄附金配分—

9月のスフォ村、フィタク村はまるでお祭りのようでした。というのは1ページにあるように、11キロメートルもの水道パイプを男性たちが水源まで運んだからです。女性たちは炊き出しを行い、住民全員の協力体制です。

肌を切るコゴングラス、行く手を阻む樹木(だからこそ豊かな水源があるわけですが)。子どもの健康と自分たちの農業の未来がかかっているからこそできた重労働です。



コゴングラスをかき分けて、  
住民は水源まで重いパイプを運んだ

その後水源の泉をコンクリートと金網で保護し、取水口を建設し、パイプをつなげていきました。10月11日付の現地からのレポートでは、パイプとパイプの結合部の再チェックを行っているところだそうです。チェック後パイプは住民男性たちによって埋設され、11月に村内中心部へ通水、12月村内支線パイプ敷設、1月水飲み場建設、蛇口取り付け、と続きます。水道受益者組合も結成され、ふんだんに水を使える日が待ち望まれます。

### パササンバオに診療車を贈るプロジェクト

＜募金目標 50 万円。継続中です＞

期限:2007年12月末まで。通信欄に「診療車」とお書き添えください。ホームページにはPIHSに滞在時の記事を掲載しています。募金ちらしのダウンロードもできます。



この秋のイベントでは募金箱を設置し、多くの方から少しずつご寄附をいただいています。誠にありがとうございます。

プロジェクト担当:渡辺せいこ

## 学力向上と職業教育のための教材整備 —ひろしま・祈りの石国際教育交流財団助成—

ブラクールでの事業の課題は雨季の道路事情。トラック便による教科書・教材が生徒たちの手元に届いたのは8月も半ば過ぎでした。しかし、その後は、教材を利用して、ポーラ先生のピーナッツバター作り、PFP 農業専門家ニックによる学校農園の有機農法指導などの職業教育が順調に実施されています。

重く穂を垂れる間作の陸稲やバナナ、ランブタンなど、学校農園の豊かな実りは何よりも生徒たちの励みになっています。新教科書による学力向上とあわせて、本事業がブラクール校を巣立つ子どもたちの確かな自立につながることを期待します。



## 貧困→焼畑→原生林破壊の悪循環ストップ！ —ダグマ山系での緑の募金事業—

昨年9月、(社)国土緑化推進機構の緑の募金交付金を受けて始めた「先住民族の村ブロンコン及びブハガンにおける持続可能な森林開発事業」が8月末に完了しました。その進捗状況は会報 47-50号で随時お伝えしてきましたので、ここでは面積・苗木数などの成果をご報告させていただきます。

- \* 入会地(急傾斜の共同使用山地)15ヘクタール  
在来樹種(フィリピンマホガニー・ナホル・ナト)苗木約1万本
- \* 対象住民35世帯の緩傾斜地 35ヘクタール  
果樹苗(ドリアン・ランブタン・ランソネス)合計 1,750本  
バナナ 2,100本・コーヒー 2,000本・アバカ 2,000本  
間作としての陸稲、ピーナッツ・コーン栽培



緑の募金事業  
を示す看板と、  
果樹が実を結ぶ  
5年後に希望を託すブハ  
ガンの住民